

Novell Sentinel 6.1 Readme

リリース日: 2008年7月31日

このファイルには、Novell[®] Sentinel[™] 6.1に関連する情報が記載されています。Sentinel 6.1は、全社的ネットワークのイベントの監視、レポート、および自動応答の機能を有し、セキュリティおよびコンプライアンスアクティビティに関するビューをリアルタイムで表示します。

このリリースではフルインストーラが提供されます。このインストーラは、既存のSentinel コンポーネントがシステムにインストールされていなくても動作するように設計されています。Sentinel 6.x を 6.1 にアップグレードするパッチインストーラは、近日中にリリースされる予定です。

次の各ソースには、Novell Sentinel 6.1に関する情報が記述されています。

- 『インストールガイド』 (<http://www.novell.com/documentation/sentinel61>)
- Sentinel 6.1 マニュアル(<http://www.novell.com/documentation/sentinel61>)
- Novell 開発者コミュニティ Web サイトの開発者向けマニュアル:
(http://developer.novell.com/wiki/index.php?title=Develop_to_Sentinel)
- Sentinel プラグインのマニュアル
(<http://support.novell.com/products/sentinel/sentinel61.html>)

Sentinel 6.1 の新機能

Sentinel 6.1 は、Novell の持つ業界最先端の識別情報管理技術を利用して、識別情報に対応した業界初のセキュリティ監視プラットフォームを作成します。

Sentinel には、識別情報管理システム内の詳細なユーザ情報が統合されます。この統合処理の一環として、単一のユーザに属するすべてのアカウントが結合され、複数のシステムにわたって単一のユーザの活動を監視することができます。Sentinel 関連アクションフレームワーク、データコレクションインターフェース、およびトラブルチケットシステムが大幅に強化された結果、拡張性が向上し、組織固有のニーズに応じた Sentinel のカスタマイズが可能になりました。

ID フレームワーク

Sentinel には、ユーザが所有している複数のアカウントにわたって、ユーザ ID レベルで相互に関連付けてレポートを生成する機能があります。ID 情報は Sentinel データベースにロードされ、受信イベントに挿入されます。この情報は、Sentinel コントロールセンターのインターフェースで参照可能です。

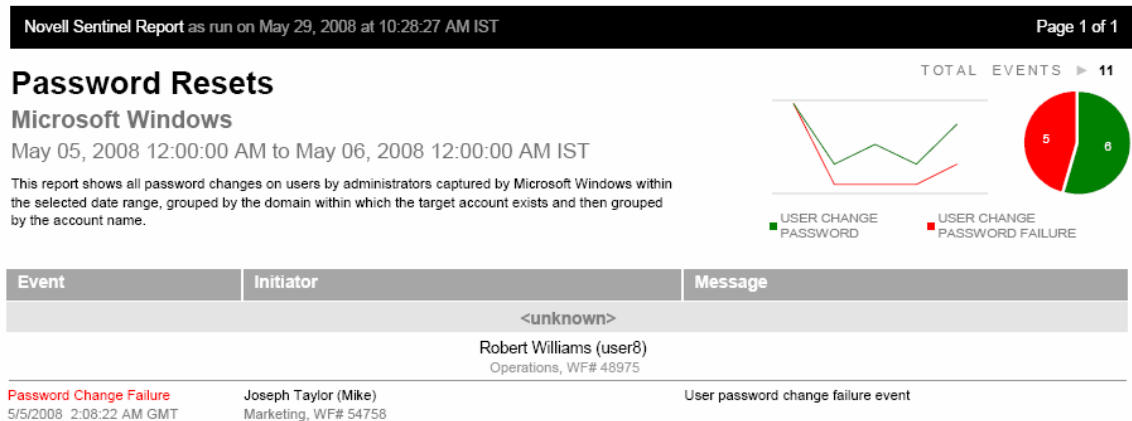
ID ブラウザ

ID 情報が Sentinel データベースに登録されると、ID ブラウザを使用して任意の ID を参照し、その ID が所有しているアカウントに関する情報や、そのユーザが最近行った操作(過去 10 回の認証など)を調べることができます。この情報にアクセスするには、特定のユーザを検索するか、イベントを右クリックします。



ID 拡張レポートニング

Sentinel レポートが拡張され、ユーザ ID 情報が存在する場合には、識別情報管理システムとの統合によって、ユーザ ID 情報を活用できるようになりました。たとえば、次のレポートは Joseph Taylor が Mike としてログインし、Robert Williams の user8 アカウントのパスワードを変更しようとして失敗したことを示しています。Robert Williams は Operations (運用)部門所属で、従業員 ID は 48975 です。アカウントをユーザおよびユーザの詳細に関連付ける機能は新しい機能です。



Novell Identity Manager との統合の強化

Novell Identity Manager との ID 統合は、Integration Pack for Novell Compliance Management Platform (Novell 準拠の管理プラットフォーム用の統合パック)によって提供されます。このオプションパッケージには、Novell Identity Manager ドライバと Sentinel 識別ポータルコレクタが含まれており、これらは Identity Manager の識別ポータルから Sentinel データベースへ識別情報を同期するために、連携して動作します。このパッケージには、ID ベースのレポートと関連ルールを持つ Sentinel ソリューションパックも含まれています。

インテグレータの使用による修正

インテグレータは、Sentinel コントロールセンターでトリガされた関連ルールによって、または右クリックメニューのオプションを選択することによって開始されるアクションを実行するための外部システムへのコネクティビティを提供します。次のインテグレータは、Sentinel システムにプリロードされています。

- SOAP インテグレータ:** SOAP サーバへの呼び出しを使用してアクションを開始するために使用されます。
- LDAP インテグレータ:** LDAP ディレクトリで属性の設定または変更を行うために使用されます。
- SMTP インテグレータ:** Sentinel によって初期化されたすべてのメールメッセージで使用されます。

メールフレームワークの統合

Sentinel によって生成されるすべてのメールメッセージは、SMTP インテグレータを使用して実装されるようになりました。このようなメールメッセージには、次のようなものがあります。

- 右クリックメニューの [電子メール] メニューアクション
- [電子メールインシデント] アクション
- iTRAC テンプレートのメールステップ
- アドバイザーダウンロードの成功およびエラーの通知

電子メールメッセージを送信する前に、Sentinel コントロールセンターで SMTP インテグレータを構成する必要があります。

Remedy Integration

BMC Remedy Service Management*との統合機能が更新され、Remedy 7.0.01 用に再構築されました。この統合機能はオプションで、インテグレータが Remedy への接続を行うインテグレータと、一連のイベントまたは Sentinel インシデントからサービスチケットを作成するためのアクションが含まれています。

JavaScript コレクタ

コレクタは、専用の(従来の)Novell コレクタスクリプト言語のほか、業界標準の JavaScript*言語でも作成できます。コレクタマネージャは、両方のタイプのコレクタを同時に実行します。Sentinel 6.1 リリースには、JavaScript コレクタを作成するための SDK が含まれています。

JavaScript コレクタは、データの操作機能が豊富で、効率性にも優れ、2バイトデータや Unicode*データを処理できます。

アクションフレームワークの変更

[イベント] メニューの [アクション] と [関連] アクションが、 [ツール] メニューに移動されました。これらのアクションは JavaScript で作成できるようになり、プラグインとして扱われるため、管理が容易になりました。 [JavaScript] オプションは、既存の [コマンドの実行] オプションに替わるもので、 [コマンドの実行] オプションは既存の [コマンドの実行] アクションのコンテキストでのみ使用できるようになりました。

XDAS に準拠するための名前付けと分類の変更

Sentinel では、階層的なイベントの分類を使用して、広範なイベントソースからのイベントをカテゴリ分けし、クラスに分類しています。この機能により、一般的な動作はプラットフォームの種類に関わらず、一貫した形式で表現されるため、分散したイベントの分析、関連、レポートングが簡単になります。

Sentinel 6.1 では、新たに出現したオープンスタンダードである XDAS に合わせて、従来の分類が変更されています。XDAS は、The Open Group (<http://www.opengroup.org/>) によって管理されている標準規格です。たとえば、次のような用語が更新されています。

- ソースはイニシエータに変更されました。
- 宛先はターゲットに変更されました。
- センサはオブザーバに変更されました。

Sentinel のユーザインタフェースに含まれている多くの部品は、XDAS 分類に合わせて更新されています。例を次に示します。

- アクティブビューおよび他のイベントテーブルの列の名前
- [このターゲットへのイベントをさらに表示する] などのメニューオプション
- [Admin] タブの [イベント環境設定] のイベントフィールドドラベル
- 関連ウィザードおよびフィルタ環境設定のイベントフィールドドラベル

データベースの拡張

アカウント、ID、および信頼情報に新しいテーブルが追加されました(信頼テーブルは、将来の拡張用に予約されています)。データベースに、カスタム情報および予約情報用のフィールドが追加されました。

プリロードされるプラグイン

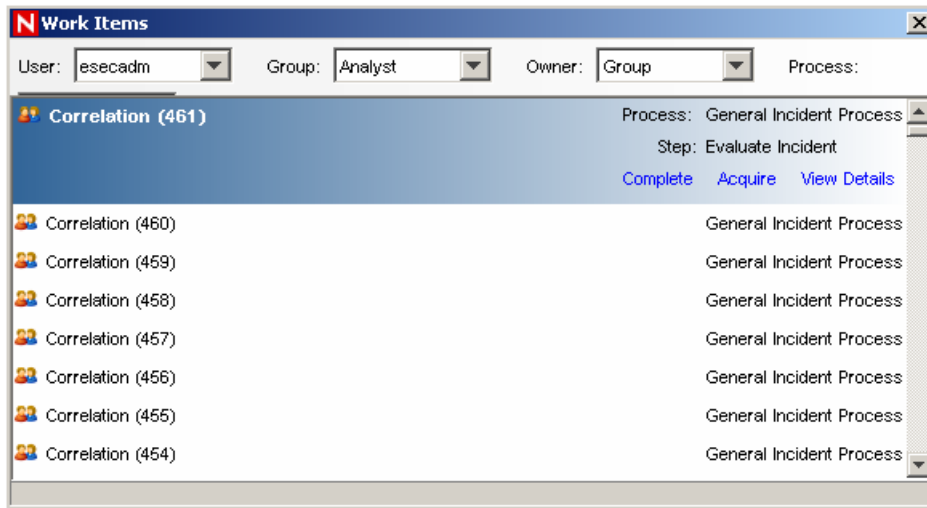
Sentinel 6.1 では、次のプラグインが自動的にインストールされます。

- 一般データおよび一般の JS (JavaScript) データを生成するコレクタ(デモ用)
- JDBC プロトコルを使用してデータベースからイベントを取得するデータベースコネクタ
- ファイルからイベントを取得するファイルコネクタ
- ユーザ定義のプロセスを実行してイベントを取得するプロセスコネクタ
- ここで説明した LDAP、SMTP、SOAP インテグレータ

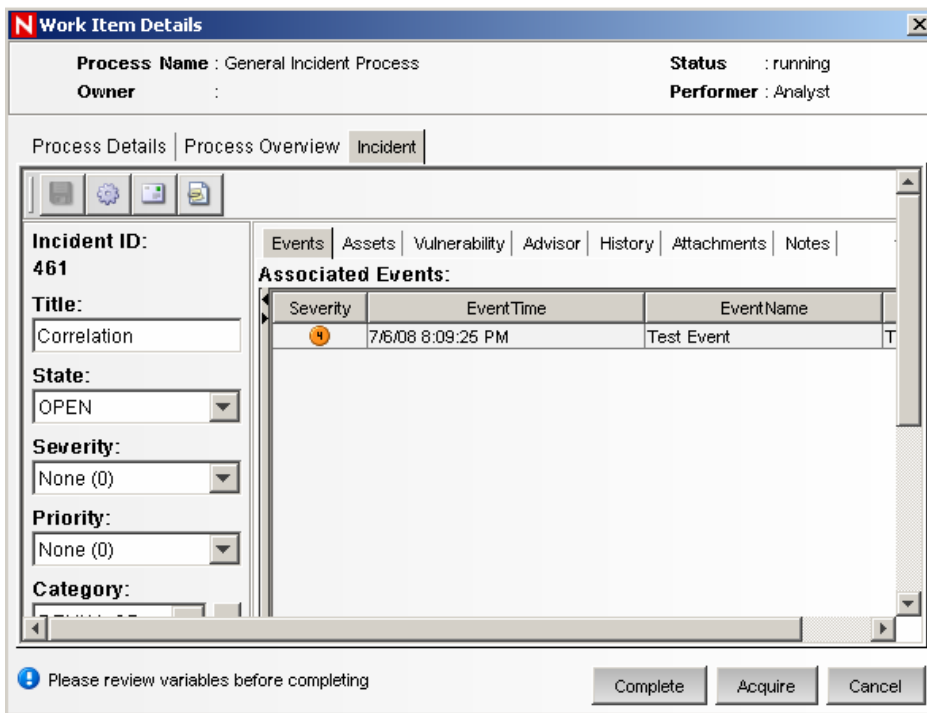
新しいプラグインまたは更新されたプラグインは、
<http://support.novell.com/products/sentinel/sentinel61> からダウンロードできます。

ワークリストとワークアイテムのユーザビリティの強化

インシデント ID がワークリストに表示されるようになり、同じ iTRAC テンプレートを使用した異なるプロセスを区別できるようになりました。インシデント ID は順番に付けられるため、どのインシデントが古いものかを簡単に判別できます。



ユーザが [詳細の表示] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



[インシデント] タブでは、インシデントの詳細に直接アクセスでき、メモや添付ファイルを追加することもできます。このため、以前のバージョンに存在した [コメント] ボタンおよび [添付ファイル] ボタンは削除されました。

プラットフォームのサポートの変更

Sentinel 6.1 では、すべての Sentinel コンポーネントについて Microsoft Windows 2008 のサポートが追加されました。さらに、クライアントコンポーネントは SuSE Linux Enterprise Desktop 10 および Microsoft Vista でもサポートされるようになりました。一方、Oracle 9i、SQL Server 2000、Solaris 9、SuSE Linux Enterprise Server 9、Red Hat Enterprise Linux 3 は、サポート対象外となりました。

Sentinel は、Microsoft SQL Server 2008 CTP February 2008 (64 ビット) のベータバージョンでもテストされています。ドキュメントの発行時点で既知の問題はありませんが、正式なリリースの前にデータベースに対して加えられた変更は、Sentinel の操作に影響する場合があります。

インストール

インストールに関する詳細な説明については、<http://www.novell.com/documentation/sentinel61> にある『インストールガイド』に記載されています。

このリリースで修正された不具合

DAT-348 – 修正済み。Sentinel データベースの統計情報で、固定拡張および自動拡張データファイルのテーブルスペースの合計サイズが正しく計算されるようになりました。

SEN-4617 – 修正済み。(オリジナル: UNIX の場合のみ。Sentinel 管理ユーザ(esecadm)のみが Sentinel コントロールセンターを実行できます。他のユーザが Sentinel コントロールセンターを実行できるようにするには、Novell テクニカルサービスの Web サイトで、「On UNIX only, only the Sentinel Administrative User (esecadm) is able to run the Sentinel Control Center」(TID #3515705) というタイトルの技術情報ドキュメント(TID)を参照してください。)

SEN-5843 – 修正済み。Sentinel システムへのプロキシ接続を使用して、コレクタマネージャに対して register_trusted_client スクリプトを実行した後に、DAS プロキシプロセスを再起動する必要がなくなりました。

SEN-6182 – 修正済み。(オリジナル: 実行中のコレクタスクリプトが停止状態になると、コレクタの子ノードは停止しません。このため、コレクタは停止しますが、そのコネクタとイベントソースはイベントソースの管理のライブビューで実行中と表示されます。イベントは処理されません。この問題を回避するには、コレクタを右クリックして手動で停止します。)

SEN-6265 – 修正済み。(オリジナル: コレクタを停止しても、その子コネクタとイベントソースが必ずしも停止しません。)

SEN-6397 – 修正されていません。フォーマッタ名は、メールの添付ファイルのフォーマットを表しています。電子メールの本文は常に名前と値のペア形式なので、この動作は意図したものです。(オリジナル: 関連アクションマネージャの電子メールの送信アクションでフォーマッタ名を「xml」に設定したとき、電子メールの本文が名前と値のペア形式で送信されます。)

SEN-6398 – 修正済み。電子メールの添付ファイルの拡張子が.xml に変更されたため、適切なビューアで開ける可能性が高くなりました。(オリジナル: 電子メールの送信アクションが関連ルールに対してトリガされると、電子メールの添付ファイルが XML 形式で

あるため、空白として表示されます。この問題を回避するには、XML を表示できるアプリケーションでファイルを開きます。)

SEN-6429 – 修正済み。役割名では、常に大文字と小文字が区別されます。(オリジナル: 役割マネージャの [Admin] タブで大文字と小文字の区別だけが異なる 2 つの役割名(たとえば、Admin と admin)を作成した場合、一方の役割に対するユーザの追加および削除がもう一方の役割にも影響します。この問題を回避するには、すべての役割名が大文字と小文字の区別以外にも異なる名前になるようにします。)

SEN-6498 – 修正済み。インシデントの許可を持たないユーザには、右クリックメニューの [インシデントの作成] オプションが表示されなくなりました。

SEN-6573 – 修正されていません。「グループ基準」にすべての属性を追加すると、「グループ基準」がまったく存在しないのと同じ結果になるため、無効な使用法となります。(オリジナル: 複合、集約、またはシーケンスのルールで属性リストのすべての属性が「グループ基準」フィールドとして選択されている場合、「RuleLg が無効です」メッセージが表示されます。)

SEN-6608 – 修正済み。マップ GUI は、新しいマップが追加されたときに自動的に更新されます。(オリジナル: マッピングサービス GUI でトップレベルの「マップ」フォルダに追加されたマップは、更新が行われるまで表示されません。この問題を回避するには、新しいマップをサブフォルダに作成します。)

SEN-6698、SEN-7705、SEN-8193 – 修正済み。e.all および %all% が Sentinel に追加され、関連および右クリックメニューアクションで使用できるようになりました。\$all\$ も追加されました。(オリジナル: 関連ルール言語は e.all 演算子をサポートしません。e.all を使用する、以前のバージョンの Sentinel からインポートされたルールは動作しません。)

SEN-6884 – 修正済み。コレクタマネージャをプロキシ接続でインストールする場合、インストーラが GUI モードだと、ユーザに [受諾] オプションが提示されません。(オリジナル: ユーザには、DAS プロキシで信頼登録を行うための 3 つのオプションが提示されます。コレクタマネージャを動作させるためには、ユーザは [受諾] ではなく [永久的に受諾] を選択する必要があります。)

SEN-7063 – 修正済み。Sentinel コントロールセンターを Windows で実行するための正しい許可が、インストーラによって esecapp ユーザに与えられるようになりました。

SEN-7274 – 拡張されました。右クリックの JavaScript アクションが、複数のイベントに対して動作するようになりました。複数のイベントが選択されると、JavaScript 以外のイベントは無効になります。

SEN-7299 – 修正済み。イベントソースの管理のチェックボックスを有効または無効にするために、ダブルクリックする必要はなくなりました。

SEN-7358 – 修正済み。新しい暗号化キーを生成するインストーラオプションは、通信サーバコンポーネントのインストール時以外には表示されません。

SEN-7539 – 修正済み。[なし] オプションは削除されました。(オリジナル: オフラインクエリの開始日または終了日を選択するとき、[なし] オプションは動作しません。この問題を回避するには、特定の日付を選択します。)

SEN-7598 – 修正済み。アーカイブデータをインポートすると、MSSQL の PRIMARY テーブルスペースが使用されません。(オリジナル: アーカイブデータは、PRIMARY MSSQL テーブルスペースにインポートされます。)

SEN-7668 – 修正済み。ソリューションマネージャとデザイナーで、名前に空白を含む添付ファイルを含めて、サポートされているすべてのプラットフォームで添付ファイルが正しく開くようになりました。

SEN-7670 – 修正済み。(オリジナル: Solaris で実行されているソリューションデザイナーのコンテンツパレットで、レポートフォルダを選択するためのドロップダウンが動作しません。この問題を回避するには、[サブフォルダのコンテンツを表示する] オプションを選択します。)

SEN-7679 – 修正済み。e-Security への参照が Novell への参照に更新されました。

SEN-7704 – 修正済み。グローバルフィルタ環境設定ウィンドウが閉じている場合、仕様に従った動作を行うようになりました。

SEN-7732 – 修正済み。イベント環境設定で必須フィールドを無効にするオプションが削除されました。

SEN-7736 – 修正済み。履歴イベントクエリで、重複イベントが返されなくなりました。

SEN-7764 – 修正済み。アドバイザのプロキシ設定管理に、proxy_passwd_update スクリプトが追加されました。

SEN-7772 – 修正済み。サーバビューからコレクタマネージャを停止する機能が、正しく動作するようになりました。

SEN-7784 – 修正済み。プラットフォームが更新され、生データをファイルに保存するオプションが正しく動作するようになりました。

SEN-8178 – 修正済み。コマンドの結果がインシデントに添付されなくなりました。

SEN-8207 – 修正済み。%ceu%のデータが関連アクションに正しく送信されるようになりました。

SEN-8208 – 修正済み。データに空白が含まれている場合でも、関連アクションのデータが引用符でくくられ、区切り記号として空白が有効になりました。

SEN-8458 – 修正済み。右クリックアクションから Remedy チケットを作成するとき、Remedy チケットにイベントが添付されるようになりました。

WIZ-1839 – 修正されていません。回避方法を参照してください。(オリジナル: コレクタスクリプト言語の ALERT コマンドでは、ConnectorID (RV23)、EventSourceID (RV24)、および TrustDeviceTime フィールドは自動的に送信されません。この問題を回避するには、ALERT コマンドを使用するコレクタ内のアラートメッセージにこれらのフィールドを追加するか、EVENT コマンドを使用するようにコレクタを更新します。)

このリリースの既知の問題と制限事項

インストールに関する問題

SEN-5895 – パスに特殊文字が含まれているディレクトリからインストーラを実行すると、Sentinel のインストールに失敗します。回避するには、インストーラディレクトリをパスにスペースを含まないディレクトリにコピーします。

SEN-3394、SEN-5524 – Sentinel が ASCII 以外の文字を含むディレクトリにインストールされている場合、Sentinel コントロールセンターおよびアンインストールのショートカットが動作しません。Sentinel コントロールセンターの問題を回避するには、アプリケーション

ョンを%ESEC_HOME%\sentinel\console\console.exe または \$ESEC_HOME/sentinel/console/console.exe から起動します。アンインストールの問題を回避するには、『インストールガイド』の手動によるアンインストール手順に従います。

SEN-5610 – SLES 10 上の Sentinel データベースをアンインストールしても、インストール中に作成されたデータベースファイルの一部が削除されません(*.dbf、*.ctl、*.log)。この問題を回避するには、『インストールガイド』に記載されている手順に従ってこれらのファイルを手動で削除します。

SEN-6041 – Sentinel では、Oracle の dbstart および dbshut スクリプトの問題のため、Oracle 10 データベースを起動できません。この問題を回避するには、『インストールガイド』の指示に従ってこれら 2 つのスクリプトを変更します。SUSE Linux Enterprise Server 10 では変更は必要ありません。

SEN-6542 – Oracle の場合のみ。DAS および Sentinel データベースをインストールするとき、インストーラの実行言語がインストール済みの Oracle ソフトウェアによってサポートされている必要があります。たとえば、DAS および Sentinel データベースをインストールするための Sentinel インストーラがフランス語で実行され、Oracle データベースが英語のみをサポートしてインストールされている場合は、das_query_*.log ファイルに NLS エラーが書き込まれます。

SEN-6881 – ユーザが通信ポートプロンプトから機能選択ページまで [戻る] をクリックし、インストールする一部のコンポーネントのチェックボックスをオフにした場合、インストーラが、必要でない通信ポートに対するプロンプトを表示し続けることがあります。この問題を回避するには、そのポートが、インストール対象として現在選択されているコンポーネントでは使用されない可能性がある場合でも、正しいポートを指定します。別のコンポーネントが後でインストールされた場合、ポートはその時点で使用されるようになります。

SEN-6882 – プロキシ経由で Sentinel サーバに接続するように設定してコレクタマネージャをインストールするときに、誤ったホスト名またはポートが入力された場合、「信頼できるクライアントを登録する許可がある Sentinel ユーザ名とパスワード」に対するプロンプトまでインストールを続行した時点でエラーが発生します。インストーラで前の画面に戻ってホスト名またはポートを編集すると、configuration.xml は新しい情報で更新されず、信頼できるクライアントの登録は失敗します。この問題を回避するには、インストーラの画面に信頼できるクライアントの登録プロンプトが表示されているときに、ESEC_HOME/config/configuration.xml ファイル内のホスト名またはポートを手動で編集します。信頼できるクライアントを登録するためのユーザ名とパスワードが再入力されると、インストーラは configuration.xml ファイルの変更を反映し、正しく続行されます。

SEN-6885 – Windows の場合のみ。Sentinel アプリケーションユーザ(esecapp)に対して Windows 認証を使用すると、データベースおよびその他の DAS 以外のプロセスがインストールされる場合に Sentinel サービスは Windows 認証ユーザとしてインストールするように設定されますが、必要なパスワードが設定されません。そのため、サービスは起動しません。この問題を回避するには、Windows サービスマネージャを使用して、サービスが「ローカルシステム」アカウントとして実行されるように設定します。DAS を実行していない場合は、サービスを Sentinel アプリケーションユーザ(esecapp)として実行する必要はありません。

SEN-6886 – Windows の場合のみ。他の Sentinel サーバコンポーネントがすでにインストールされているマシンに DAS コンポーネントが追加され、Sentinel アプリケーションユーザ(esecapp)が Windows 認証を使用する場合、DAS のインストール完了後、Sentinel サービスが「ローカルシステム」ユーザとして実行するように誤って設定されたままにな

ります。この問題を回避するには、Windows サービスマネージャを使用して、Sentinel サービスが Sentinel アプリケーションユーザとして実行されるように、手動で設定します。

SEN-6920 – インストール時に、一部の画面(特に、ユーザ認証の画面)が完全に表示されない場合があります。この問題を回避するには、InstallShield ウィザードで前に戻ったり次に進んだりする操作を行うか、ウィンドウの最小化や最大化を行って、ウィザード画面を再表示します。

SEN-8098 – コレクタマネージャをインストールするとき、[Select Keystore (キーストアの選択)] オプションと、それに関連する [参照] ボタンが表示されない場合があります。この問題を回避するには、[戻る] ボタンをクリックして前の画面に戻り、[次へ] ボタンをクリックします。

SEN-8375 – インストール時にユーザが通信サービスの IP アドレスの前に空白を入力すると、Sentinel コンポーネントは正しく接続できません。この問題を回避するには、configuration.xml ファイルを手動で編集して空白を削除します。

SEN-8434 – Linux プラットフォームに esecadm ユーザがすでに存在する場合、新しい esecadm ユーザについて、インストーラによって行われるべき手順が一部実行されません。具体的には、「esec」グループに esecadm ユーザが追加されません。また、esecadm ユーザのホームディレクトリが、インストーラで指定されたディレクトリに変更されません。この問題を回避するには、「esec」グループに esecadm ユーザを手動で追加し、既存のホームディレクトリを使用します。

その他の問題

DAT-213 – SQL Server 2005 の場合のみ。現在オンラインのパーティションが P_MAX の場合、データベースにパーティションを追加できません。

DAT-280 – Sentinel データマネージャアプリケーションが長時間開いたままになっていると、「ORA-01000: 最大オープン・カーソル数を超えました。」というエラーが発生します。この問題を回避するには、使用しないときには SDM を閉じるようにします。

DAT-360、DAT-364 – データをインポートしてから Sentinel データマネージャを使用してデータを解放した場合、インポートしたパーティションがイベントテーブルから解放されません。インポートしたパーティションに相関イベントと概要データがある場合は解放されません。

SEN-3897 – サーバビューマネージャは、特定のマシンにインストールされていないプロセスのステータスを NOT_INITIALIZED と表示します。たとえば、Windows 上の Sentinel は、「UNIX Communication Server」プロセスを NOT_INITIALIZED と表示し、UNIX 上の Sentinel は「Windows Communication Server」プロセスを NOT_INITIALIZED と表示します。NOT_INITIALIZED というステータスで表示されるプロセスは無視してください。

SEN-4634、SEN-4726 – iTRAC ワークフローで、浮動小数点変数の割り当てと比較が正しく処理されません。この問題を回避するには、ワークフロー内で整数、ブール、または文字列変数を使用します。

SEN-5609 – iTRAC テンプレートに関連付けられている iTRAC 動作が削除されると、その動作の使用を試みる iTRAC プロセスは失敗します。この問題を回避するには、動作を削除する前に、その動作が使用されないことを確認します。

SEN-5931 – デバッガモードでコレクタが停止状態になると、[ステップイン]、[一時停止]、および[停止]ボタンは使用できますが、機能しません。回避するには、デバッガを閉じて、再び開きます。

SEN-6473 – イベントソースの管理のライブビューで、生データのタップからノードにフィルタ条件を追加し、[OK]ボタンを選択して新しいフィルタ条件を保存すると、ノードの状態が生データのタップが開かれる前の状態に戻ります。

SEN-6701 – イベントソースサーバに関連するノードの移動または複製は、直接であろうと、親または子を通じてであろうと、失敗します。回避するには、ノードをエクスポートし、インポートします。

SEN-6895 – Windows の場合のみ。インストール時に Unicode 以外のデータベースが選択された場合、GUI にラテン文字が適用されません。

SEN-7257 – Sentinel 5.1.3 システムで展開された一部のコレクタは、手動で再度展開する必要があり、一部変更する必要がある場合もあります。『Sentinel ユーザガイド』および Sentinel マニュアルページの「Migrating to Sentinel 6」セクションの下にあるマニュアルには、参考になる情報が記載されています。これらのマニュアルについては、<http://www.novell.com/documentation/sentinel6> を参照してください。

SEN-7519 – Sentinel コントロールセンターで、ナビゲータまたはワークリストのドッキング可能なフレームを閉じたときに初期設定が保存された場合、ナビゲータとワークリストを復元するには、Sentinel コントロールセンターの実行可能ファイルで、保存されている初期設定を強制的に無視する必要があります。このためには、control_center.sh または control_center.bat ファイルの console.jar エントリに「-nopref」（「」は含みません）を追加します（「console.jar -nopref」）。フレームは、コマンドラインから control_center.sh または control_center.bat を実行したときに復元されます。保存されたビューなどの他の初期設定は、再作成してから保存する必要があります。保存された初期設定の使用を再度有効にするには、control_center ファイルから「-nopref」引数を削除します。

SEN-7522 – コレクタデバッガの実行中に、イベントソース管理でコレクタの状態を変更すると、デバッガが無効になります。

SEN-7646 – JavaScript 関連アクションデバッガが実行中に突発的な原因で(先にデバッガを停止することなく)何回も終了した場合、デバッガに JavaScript コードではなく空白の画面が表示されることがあります。この問題を回避または解決するには、デバッガでスクリプトの再実行を試みる前に[停止]ボタンをクリックします。

SEN-7666 – ソリューションデザイナーが Cygwin X サーバを使用して実行されている場合、ドラッグアンドドロップを使用してソリューションパックにコンテンツを追加することができません。この問題を回避するには、[選択したコンテンツの追加]ボタンを使用します。

SEN-7937 – インテグレータマネージャでインテグレータのインスタンスを切り替えると、設定が何も変更されていなくても自動保存ダイアログが表示されます。この問題を回避するには、設定が何も変更されていない場合は、自動保存ダイアログが表示されたときに[キャンセル]ボタンをクリックします。

SEN-8096、SEN-8097 – IP/CustomerName のペアについて物理アセットデータのアップロードを試みたとき、そのペアのソフトアセットデータが Sentinel データベースにすでに存在すると、エラーがスローされます。IP/CustomerName のペアについてソフトアセットデータのアップロードを試み、そのペアの物理アセットデータが Sentinel データベースにすでに存在している場合も、同じ現象が発生します。

SEN-8140 – Integrator パラメータを持つ JavaScript アクションが、インテグレータが構成される前に構成された場合、Integrator の値として NULL が保存されます。その後でインテグレータが構成されると、そのインテグレータの名前がアクションマネージャに表示されますが、アクションは期待通りに機能しません。この問題を回避するには、インテグレータを必要とする JavaScript アクションを構成する前に、必ずインテグレータを構成します。

SEN-8353 – JavaScript プラグインが編集して新しいパラメータを追加し、その後で既存のプラグインの更新として Sentinel にインポートする場合、既存の構成済みプラグインの値をリセットする必要があります。

SEN-8436 – インテグレータまたはアクションをソリューションパックによって Sentinel にインポートした場合、同じ名前のインテグレータまたはアクションがすでに存在していると、同じ名前でも ID が異なる 2 つのインテグレータまたは 2 つのアクションが混在することになります。この問題を回避するには、Sentinel コントロールセンターでインテグレータの片方の名前を変更します。名前を変更するインテグレータが目的のものであることを確認するには、ソリューションマネージャおよびインテグレータマネージャで ID を比較します。

SEN-8463 – JavaScript アクションデバッガが、インシデントの作成関連アクションに関連付けられている JavaScript アクションのコンテキストでは動作しません。この問題を回避するには、相関ルールに JavaScript アクションのみを追加(インシデントの作成関連アクションは追加しない)してから、デバッグを行います。

SEN-8465 – コレクタデバッガに、データストリームには実際に存在しない変数と値が、誤って表示されることがあります。このため、追加の変数が登録されているように見えます。

SEN-8467 – Sentinel データマネージャで、テーブルスペースの合計サイズが約 2TB よりも大きいテーブルを開こうとすると、ハングアップして動作が完了できません。この問題を回避するには、プロセスがハングアップした後で [データベースに接続] ウィンドウを閉じます。このような状況では、データベースへの接続はすでに行われているため、一部の SDM 機能を使用できます。[テーブルスペース] タブは空白になります。

SEN-8474 – JavaScript アクションが通常どおり実行されているとき、その JavaScript が使用するインテグレータは Sentinel サーバ(DAS_Query)プロセスで実行されています。このため、インテグレータにより実行されるすべてのリモート接続の接続元は、Sentinel サーバマシンになります。ただし、JavaScript アクションをデバッグするときは、インテグレータが Sentinel コントロールセンターでローカルに実行されるため、インテグレータで実行されるすべてのリモート接続の接続元は Sentinel コントロールセンターマシンになります。Sentinel サーバがインテグレータのリモートターゲットに接続でき、Sentinel コントロールセンターが接続できない場合(または逆の場合)は、予期しない動作が引き起こされる可能性があります。この問題を回避するには、JavaScript アクションのデバッグが必要な場合に、Sentinel コントロールセンターを Sentinel サーバマシンで実行します。

Sentinel コントロールセンターでの変更内容の表示または更新は、直ちに行われない場合があります。この現象は、次のような領域で確認されています。

- SEN-4689、SEN-5698 – iTRAC ワークフローでタイムアウトまたはアラートの遷移が発生した場合、iTRAC テンプレート内の遷移によってワークアイテムは正常に次

のステップに進みますが、ワークアイテム GUI が更新されません。この問題を回避するには、Sentinel コントロールセンターを再起動します。

■SEN-6285 – プロセスビューマネージャで、iTRAC の現在のビューにフィルタを追加した場合、ビューが直ちに更新されません。この問題を回避するには、[更新] をクリックします。

■SEN-7238 – ユーザが複数のグローバルフィルタまたはカラーフィルタを追加して [X] ボタンをクリックし、[変更の保存] ダイアログで [いいえ] を選択すると、グローバルフィルタまたはカラーフィルタを再度開いたときに、これらのフィルタが表示されたままになります。この問題を回避するには、Sentinel コントロールセンターを再起動します。

保証と著作権

米国 Novell, Inc.およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。

また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc.およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc.、およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。

ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、<http://www.novell.com/info/exports> を参照してください。弊社は、必要な輸出承認をお客様が取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 1999-2008 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc.は、本文書に記載されている製品に統合されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の追加特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.

404 Wyman Street, Suite 500

Waltham, MA 02451

U.S.A.

www.novell.com

Novell の商標

Novell の商標については、<http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html> の Novell Trademark and Service Mark List を参照してください。

サードパーティーの資料

サードパーティーの商標は、それぞれの所有者に属します。

サードパーティーの保証と著作権

この製品には、LGPL ライセンスに基づいて使用できる以下のオープンソースプログラムが含まれている場合があります。このライセンスのテキストは Licenses ディレクトリにあります。

- edtFTPj-1.2.3 は、Lesser GNU Public License に基づいて使用許諾されています。免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.enterprisedt.com/products/edtftpj/purchase.html> を参照してください。
- Enhydra Shark は、Lesser General Public License に基づいて使用許諾されています。ライセンスは、<http://shark.objectweb.org/license.html> で入手できます。
- Esper. Copyright © 2005-2006, Codehaus.
- FESI は、Lesser GNU Public License に基づいて使用許諾されています。免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.lugrin.ch/fesi/index.html> を参照してください。
- jTDS-1.2.2.jar は、Lesser GNU Public License に基づいて使用許諾されています。免責事項、制限事項などの詳細については、<http://jtds.sourceforge.net/> を参照してください。
- MDateSelector. Copyright © 2005, Martin Newstead. Lesser General Public License に基づいて使用許諾されています。免責事項、制限事項などの詳細については、<http://web.ukonline.co.uk/mseries> を参照してください。
- Tagish Java Authentication モジュールおよび Authorization Service モジュールは、Lesser General Public License に基づいて使用許諾されています。免責事項、制限事項などの詳細については、<http://free.tagish.net/jaas/index.jsp> を参照してください。

この製品には、The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発され、Apache License, Version 2.0 (以下「ライセンス」) に基づいて使用許諾されている次のソフトウェアが含まれている場合があります。このライセンスのテキストについては、Licenses ディレクトリまたは <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0> を参照してください。適用法によって要求される場合または書面による合意のある場合を除き、このライセンスの下で配布されるソフトウェアは「現状のまま」配布され、いかなる保証および条件に対しても、明示的または暗示的を問わず、一切責任を負わないものとします。ライセンスに基づく許可および制限を規定する具体的な文言についてはライセンスを参照してください。

- Apache Axis および Apache Tomcat: Copyright © 1999 to 2005, Apache Software Foundation. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.apache.org/licenses/> を参照してください。
- Apache FOP.jar: Copyright 1999-2007, Apache Software Foundation. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.apache.org/licenses/> を参照してください。
- Apache Lucene: Copyright © 1999 to 2005, Apache Software Foundation. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.apache.org/licenses/> を参照してください。
- Bean Scripting Framework (BSF) は、Apache Software Foundation により使用許諾されています (Copyright © 1999-2004)。免責事項、制限事項などの詳細については、<http://xml.apache.org/dist/LICENSE.txt> を参照してください。
- Skin Look and Feel (SkinLF): Copyright © 2000-2006 L2FProd.com. Apache Software License に基づいて使用許諾されています。免責事項、制限事項などの詳細については、<https://skinlf.dev.java.net/> を参照してください。

- Xalan および Xerces は、どちらも Apache Software Foundation から使用許諾されています。Copyright © 1999-2004. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://xml.apache.org/dist/LICENSE.txt> を参照してください。

この製品には、Java ライセンスに基づいて使用できる以下のオープンソースプログラムが含まれている場合があります。

- JavaBeans Activation Framework (JAF)。Copyright © Sun Microsystems, Inc. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.java.sun.com/products/javabeans/glasgow/jaf.html> を参照し、[download] > [license] をクリックしてください。
- Java 2 Platform, Standard Edition: Copyright © Sun Microsystems, Inc. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://java.sun.com/j2se/1.5.0/docs/relnotes/SMICopyright.html> を参照してください。
- JavaMail。Copyright © Sun Microsystems, Inc. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.java.sun.com/products/javamail/downloads/index.html> を参照し、[download] > [license] をクリックしてください。

この製品には、次のオープンソースプログラムとサードパーティプログラムが含まれている場合があります。

- ANTLR。免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.antlr.org> を参照してください。
- Boost: Copyright © 1999, Boost.org.
- Concurrent: ユーティリティパッケージ。Copyright © Doug Lea. CopyOnWriteArrayList クラスと ConcurrentReaderHashMap クラスなしで使用されます。
- ICEsoft ICEbrowser. ICEsoft Technologies, Inc. Copyright © 2003-2004.
- ILOG, Inc. Copyright © 1999-2004.
- Java Ace: Douglas C. Schmidt 氏とワシントン大学の彼の研究グループによって開発されました。Copyright © 1993-2005. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/ACE-copying.html> および <http://www.cs.wustl.edu/~pjain/java/ace/JACE-copying.html> を参照してください。
- Java Service Wrapper: 次のように著作権で保護されています。Copyright © 1999, 2004 Tanuki Software、および Copyright © 2001 Silver Egg Technology. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://wrapper.tanukisoftware.org/doc/english/license.html> を参照してください。
- JIDE: Copyright © 2002-2005, JIDE Software, Inc.
- JLDAP: Copyright © 1998-2005 The OpenLDAP Foundation. All rights reserved. Portions Copyright © 1999-2003 Novell, Inc. All Rights Reserved.
- Monarch Charts: Copyright © 2005, Singleton Labs.
- OpenSSL: OpenSSL Project によって開発されました。Copyright © 1998-2004. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.openssl.org> を参照してください。
- Oracle Help for Java: Copyright © 1994-2006, Oracle Corporation.
- Rhino: 使用条件は、Mozilla Public License 1.1 によって規定されます。詳細については、<http://www.mozilla.org/rhino/> を参照してください。
- SecurityNexus: Copyright © 2003 - 2006. SecurityNexus, LLC. All rights reserved.
- Sonic Software Corporation: Copyright © 2003-2004. SSC ソフトウェアには、RSA Security, Inc から使用許諾されたセキュリティソフトウェアが含まれています。
- Tao (ACE ラッパーを含む): Douglas C. Schmidt 氏と、ワシントン大学、カリフォルニア大学アーバイン校、ヴァンダービルト大学の彼の研究グループによって開発されました。Copyright © 1993-2005. 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/ACE-copying.html> および <http://www.cs.wustl.edu/~pjain/java/ace/JACE-copying.html> を参照してください。

- Tinyxml: 免責事項、制限事項などの詳細については、<http://grinninglizard.com/tinyxmldocs/index.html> を参照してください。
- XML Pluu Parser: この製品には、Indiana University Extreme! Lab (<http://www.extreme.indiana.edu/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。
- yWorks: Copyright © 2003 - 2006, yWorks.

注意: 本書の出版時点では、これらのリンクは有効でした。上記のリンクが壊れていたり、リンクされている Web ページを参照できなくなっていたりする場合は、Novell, Inc., 404 Wyman Street, Suite 500, Waltham, MA 02451 U.S.A.までご連絡ください。
